

## VI 選択研修における各診療科（部）等のプログラム

### 呼吸器内科

#### I. 研修目標

臨床医として医療の社会的ニーズに適切に対応できるようになるために日常診療で頻りに遭遇する内科・呼吸器疾患に的確に対応でき、その病態を理解すべく幅広い基本的臨床能力（態度、技能、知識）を養い、更に、将来の内科専門医、呼吸器内科専門医、その他のサブスペシャリティー専門医の取得を目指すため自己を発展させることができる基礎をつくることを目標とする。

#### II. 研修プログラムの概要・特徴

呼吸器内科では、指導医、専攻医から成る病棟チーム制で診療を行っており、いずれかのチームに所属し研修を行う。チーム内では症例に対する適切なアセスメント能力の醸成に主眼を置いた屋根瓦方式にて指導が行われ、病棟診療では常に“聞くこと”のできる環境が整っている。肺癌、呼吸器感染症、気管支喘息/COPD、間質性肺疾患などの呼吸器疾患の診療を通じ、身体所見やバイタルサインの把握、胸部 X 線や CT 画像の読影方法、気管支内視鏡検査、呼吸機能評価、疾患に応じた適切な治療法の選択、治療効果判定法、酸素療法や呼吸管理方法などが習得できるような研修プログラムになっている。

#### III. 週間スケジュールと研修の方策

- 月：モーニングカンファレンス、チームブリーフィング・チーム回診、病棟業務  
気管支鏡検査（BAL、透視下生検、超音波気管支鏡）、外来化学療法カンファレンス（隔週）
- 火：チームブリーフィング、外来診療の研修、病棟業務  
気管支鏡検査の事前検討会・結果報告  
新患カンファレンス、呼吸器外科・放射線治療科との合同カンファレンス
- 水：モーニングレクチャー（胸部画像診断・疾患・呼吸機能シリーズ、手技・患者教育実習）  
病棟業務、回診準備、緩和ケアチームカンファレンス
- 木：論文抄読会、チームカンファレンス、教授回診、病棟業務  
気管支鏡検査（BAL、透視下生検、超音波気管支鏡）
- 金：モーニングレクチャー（胸部画像診断・疾患・呼吸機能シリーズ、手技・患者教育実習）  
気管支鏡検査（BAL、透視下生検、超音波気管支鏡）、病棟業務、チームブリーフィング

入院患者の診療においては、チーム制（A, B, C）で対応するため、研修医はいずれかのチームに所属してチームの一員として指導医とともに診療を行う。問診、バイタルサインや身体所見の確認、これまでの臨床経過などから鑑別診断や臨床上の問題点を考え、それに対する考察や追加検査、その後の治療介入、患者・家族への説明や同意取得などを指導医やチームメンバーとともに行っていく。

月曜日のモーニングカンファレンスでは、指導医とともに、重要な疾患のまとめや最新のレビュー、経験した症例を学会形式でプレゼンテーションし、最新の情報の習得や疾患の理解を深め

る。また、気管支鏡検査では、指導医の指導・監視のもと喉頭麻酔の方法や気管支内視鏡の取り扱いについて実習する。

火曜日の呼吸器カンファレンスでは、新規入院患者や重症例について問題点を明らかにして、検査計画、診断、治療計画について検討する。担当症例のプレゼンテーションや、呼吸器外科・放射線治療科との合同カンファレンスでは、外科的治療・放射線治療の適応、及び、手術予定症例について合同で検討を行い、最終的な治療方針を決定する。

水、金曜日のモーニングレクチャーでは、若手医師や研修医・学生を対象に胸部画像（X線写真やCT画像）の読影方法、内科全般や呼吸器診療に必要な検査手技、動脈血液ガスや肺機能検査などの呼吸機能の評価方法とその解釈、酸素療法や呼吸管理法、喘息の吸入治療などの実際の患者教育の方法などについて習得する。外来では、指導医の外来に陪席して診察方法を学ぶ。

木曜日は、臨床や研究に関する最新のトピックスについて医学論文の抄読会を行っている。チームブリーフィング・カンファレンスでは、チーム担当の全症例の現状把握、問題点の整理、診断アプローチ・治療方針の確認を行う。教授回診では、患者ごとにベッドサイドで一週間のサマリーをコンパクトに提示し、治療効果や問題点、今後の方針などについてdiscussionする。

特に、以下の検査・治療手技については指導医を中心にマンツーマンで実技指導を受ける。

気管支内視鏡検査・経気管支肺生検・気管支肺胞洗浄法、超音波気管支鏡ガイド下生検、呼吸機能検査、呼気NO濃度、動脈血液ガス分析、睡眠ポリグラフィ、喀痰グラム染色、胸腔試験穿刺、胸腔ドレナージ、胸膜癒着術、酸素療法、人工呼吸管理（IPPV, NPPV）

また、内科学会や呼吸器学会で発表しプレゼンテーションやdiscussionの方法を習得する。

#### **IV. 研修プログラム達成目標**

##### 呼吸器内科研修（1ヶ月コース）

代表的な呼吸器疾患について、診断へのアプローチ、治療方針の決定までの基本的診療が理解できる。（可能なら2ヶ月以上が望ましい）

##### 呼吸器内科研修（2ヶ月コース）

代表的な疾患について、症候・身体所見・検査結果から診断へのアプローチ、治療方針の決定について理解できる。

##### 呼吸器内科研修（3ヶ月コース）

代表的な疾患について、症候・理学所見・検査結果から診断へのアプローチ、治療方針の決定が指導医の指導のもとに立案できる。検査・処置・治療手技を指導医のもとに実施できる。

##### 呼吸器内科研修（6ヶ月コース）

代表的な疾患について、症候・理学所見・検査結果から診断へのアプローチ、治療方針の決定が一人で立案でき、指導医と討論しチーム医療を実践できる。また、検査・処置・治療手技を指導医のもとに行い、治療効果や副作用のチェックとその対応ができる。

**V. 研修実施責任者** 呼吸器内科・科長 坂上拓郎

**VI. 研修指導責任者** (正)一安秀範, (副)佐伯祥, 岡本真一郎, 富田雄介, 猿渡功一  
猪山慎治, 坂田晋也

詳細は、熊本大学呼吸器内科ホームページ (<http://kumamoto-respir.com/>) をご参照下さい。